

ロシア所蔵チベット語袖珍本について (1)*

白井聡子

1 序

ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所にはカラホト出土とされるチベット語資料が多数所蔵されている。筆者はそのうち XT-67 の一部について内容比定を行った。本稿では、その形式・内容の概略を述べた上で、言語的特徴について考察を行う。さらに、全文を訳および注と共に紹介する。

2 資料 XT67a について

XT-67 は、ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所にカラホト出土として所蔵されているチベット語資料の一つである。全体では 24 コマ分残存し、第 1 コマから第 13 コマ左半分までは 1 つの經典の断片である。¹ 本稿ではこの部分を便宜的に XT67a と呼び、考察の対象とする。

Vorobyova-Desyatovskaya (1995: 47) によれば、XT-67 は 16 世紀末に A. S. Martynov により作成された目録に含まれているという。また、展示品カタログにおいて L. S. Savitsky 博士によって紹介されたことがある (Savitsky 1996 [1993]²: 278)。XT-67 が収められた箱にはドイツ語によるラベルが貼られており、「XT-67 (Kat. 87) / チベット語袖珍本 / 12 世紀末 / 木版印刷 [XT-67 (Kat. 87) / Taschenbuch in Tibetischer Sprache / Ende 12 Jh. / Blockdruck]」とある。„Kat. 87“ は Savitsky (ibid.) のカタログ番号に対応する。しかしこれまで、内容比定はされないままであった。

* 資料調査にあたっては、ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所の先生方に大変お世話になった。ご協力に心より感謝申し上げます。なお本稿は、科学研究費補助金・基盤研究 (A) (1) 「中央アジア古文獻の言語学的／文献学的研究－ロシア所蔵未発表文献の解明－」(研究代表者：庄垣内正弘、課題番号 14201053) による研究成果の一部である。

¹ Savitsky (1996 [1993]: 278) にも指摘されているとおり、第 20 コマ (54 葉目左+ 56 葉目右) にも經典の切れ目がある。つまり XT-67 には 3 篇の經典が含まれている。² 原書は 1993 年に出版されているが未見。本稿では 1996 年台湾での展示用に出版された中国語訳を参照した。

2.1 XT67a の形式

XT-67 は形式上きわめて特異で、中国的特徴とチベットの特徴を併せ持つ折衷様式で制作されている。

内容はチベット語訳仏教經典だが、チベットで一般的な貝葉本とは版形も装丁も全く異なり、中国式を模倣ないしは漢文木版本と同じ外枠を用いたと思われる。胡蝶装小型木版本で、大きさは折り畳んだ状態で縦 127mm × 横 86mm である。³ Vorobyova-Desyatovskaya (1995: 47) は “a Buddhist canonical text, a block-printed copy-book made by a Chinese engraver” と紹介している。本稿ではラベルに „Taschenbuch“ とあるのに従い、便宜的に「袖珍本」と呼ぶ。

各葉の中央折り目部分に柱があり、漢数字で葉番号が書かれている。これは、西夏の木版印刷物にはよく見られる特色であるという (Savitsky 1996 [1993]: 278)。後の時代の加筆と思われるが、柱の漢数字に対応する漢数字の葉番号が柱の下、左右のページ (半葉) にそれぞれ手書きされる。その外側に、さらに鉛筆書きと思われるアラビア数字で対応する葉番号が書かれている。⁴

1 葉は 6 行からなる。各行はチベット貝葉本と同じく、葉の左端から右端まで続き、中央の柱を無視して作られている。この点について、Savitsky (ibid.) は「カラホト出土の中国・西夏文物の中に、このような形式を具えた經典はほかにない。一般には、各葉の半分だけで、独立し整った経文を含んでいる」と述べている。つまりこの時代の中国様式の印刷物において一般的だった半葉のまとまりを無視しており、この点ではチベットの様式を踏襲したと考えられる。⁵

XT67a の欠落部分はいずれも半葉単位で紙の折り目から欠けている。XT-67 のコマ番号と本来の葉番号は次のように対応する。XT-67(1): 2 右; (2): 3; (3): 4; (4): 5; (5): 6 左+ 9 右; (6): 10; (7): 11; (8): 12; (9): 13 左+ 23 右; (10): 24; (11): 25; (12): 26; (13): 27 左 (+ 34 右)。以下、特に断らない限り、言及には後者の葉番号を用いる。括弧書きで (3:5) のように示す場合、コロンの前が葉番号 (第 3 葉)、後が行番号 (5 行目) を表す。

³ Savitsky (1996 [1993]: 278) は開いた状態での大きさ (13 × 17.5cm) を掲載している。 ⁴ ただし、第 11 コマ左葉のアラビア数字「23」は「25」の誤りである。 ⁵ おそらくは、漢語・西夏語と異なり、チベット文語が横書きの文字体系をもつためだろう。

2.2 XT67a の内容

XT67a の残存箇所について、対応する内容を漢訳仏典に見いだすことができた。それは、大正新修大蔵経 vol. 20 No. 1060 「千手千眼観世音菩薩廣大円満無礙大悲心陀羅尼經」(以下、大 1060 とする) の一部である。XT67a には訳出されていない部分も多く、節略版であると考えられる。

チベット大蔵経には XT67a とほぼ一致するものがあつた。チベット訳題 *'phags pa spyan ras gzigs dbang phyug thugs rje chen po'i gzungs phan yon mdor bsdus pa zhes bya ba*,⁶ サンスクリット首題 *Mahākāruṇika-nāmā-ārya-avalokiteśvara-dhāraṇī anuśaṃsa-sahita-sūtrāṭ samgrhītā* である。北京版⁷およびデルゲ版⁸での対応箇所は次のとおりである。

北京版： P[8] (380) tsa 39b7-43a6⁹ (以下、P380)

(残存部分対応箇所：40a1-b1, 40b6-41a5, 42b1-6)

デルゲ版： D[6] (723) tsa 201b3-204a7 (以下、D723)

(残存部分対応箇所：201b4-202a3, 202a6-b5, 203b2-204a2)

この陀羅尼經は他言語にも翻訳されている。ウイグル語訳については庄垣内 (2003 : 189-196) の研究がある。¹⁰ また、西田 (2002: 4) に西夏語訳 (TG 329 No. 619) の一部が示されている。

3 XT67a に用いられたチベット語について

先に述べたように、XT-67 のラベルには 12 世紀末の資料 (Ende 12 Jh.) と書かれているが、その根拠は不明である。ここで、12 世紀末頃のチベット文語と XT67a に用いられる言語および文字の特徴について概略を述べる。

チベット文語は 7 世紀初頭に成立し、3 回にわたる改訂 (釐定) を経たとされる。その状況および従来の評価については西田 (1987) に詳しい。第 1 次改訂は 7 世紀初頭から 9 世紀初頭にかけて漸次、第 2 次改訂は 9 世紀初頭 (814?) に、第 3 次改

⁶ 東北帝国大学法文学部編 (1934) および大谷大学監修 (1985) の目録に用いられる Das の転写方式では *Hphags-pa spyan-ras-gzigs dban-phyug thugs-rje chen-po'hi gzungs phan-yan mdor-bsdus-pa zhes-bya-ba*.

⁷ 『影印北京版 西藏大蔵経』(東京・京都：鈴木学術財団, 1955-61) を用いた。17 世紀末に開版, 18 世紀初頭に復刻されたもの (御牧 1987: 283-284)。

⁸ *The Nyingma Edition of the sDe-dge bKa'-gyur and bsTan-'gyur*. vol.33 (Oakland: Dharma Press, 1980) を参照した。18 世紀前半の開版 (御牧 1987: 284)。

⁹ 塚本他 (1989: 133-4) ではこれが大 20 No. 1061 にあたるとしているが、大 20 No. 1061 が陀羅尼部分のみを抜き出した版であるのに対し、このチベット語訳はそれ以外の部分をも含めた節略版になっている。¹⁰ ただし、残存箇所は一致しない。この本で言及・同定されている、Röhrborn (1976) 所収のウイグル語訳断片とは部分的に一致する。

訂は 11 世紀末から 15 世紀初頭にかけて漸次おこなわれたとされる。中でも重要であったのは第 2 次改訂で、綴り字と仏典訳語についての「より決定的な改定」が行われたという。このことは、第 2 次改訂以前の表記が「旧綴字」、以後の表記が「新綴字」と呼ばれることにも現れている。以下、第 2 次改訂以前のチベット文語を「古チベット語 (OT: Old Tibetan)」, 第 2 次改訂で定められた規範が浸透してからのものを「古典チベット語 (CT: Classical Tibetan)」と呼ぶ。

XT67a は、第 2 次改訂が行われて 3 世紀近くを経た 12 世紀末の成立とされている。ところが Vorobyova-Desyatovskaya (1995: 46-47) にも指摘されるように、いわゆる「旧綴字」の特徴を多く残している。この問題については、武内 (2002) の指摘が当てはまると考えられる。

綴り字については、第 2 次改訂で否定されたはずの古チベット語文献特有の古綴り字 (e.g. *myi-*, 再添後字 *-d*) は、それ以降も引き続いて多くの文献で使われ、[……] 11 世紀まで至る。[……] 第 2 次改訂が古典チベット語の成立を即もたらしたのではない。第 2 次改訂の理念であった正書法改革は、11 世紀以降、[……] いわゆる第 3 次改定 (*bkas bcad gsum-pa*) においてようやく実現したのである。(武内 2002: 113-2 [注 49])

このような状況から、現段階では 12 世紀のチベット文語がどのようなものであったか正確に知ることはできない。よって、本稿では XT67a の成立年代については考察を行わず、古典チベット語および古チベット語と対比した言語上の特徴のみを考察の対象とする。

時代差のほかに地域差が現れている可能性もある。XT-67 はカラホト (現在の内蒙古自治区額濟納旗付近) 出土として整理されている。しかし現在この地域においてチベット語は話されておらず、現代のどの方言と比較するのが適当であるか判断することは難しい。本稿では必要に応じてラブラン方言と中央方言の現代口語形式を挙げる。前者はアムド方言群に属し、比較的出土地に近い地域で話されている。後者はその分布地域が当時以来のチベットの中心地である。

3.1 古チベット語的特徴¹¹

XT67a に用いられているチベット語を古典チベット語テキスト (P380/D723) と対比すると、以下のような相違点が見られる。特に断らない限り、第 2 次改定以前の特徴を残しているものである。ただし後述するように時代差だけでは説明のつか

¹¹ 古チベット語資料としては、Takeuchi (1995) などを用いた。

ない特徴も見られる。なお、XT は XT67a, CT は古典チベット語, OT は古チベット語を示す。

(1) 母音記号 *I* (反転字) が固有語に用いられる。古典チベット語においては、反転字 *I* はサンスクリットの成節流音 \bar{r}, \bar{l} を表記する場合にしか用いられない。さらに XT における反転字 *I* と通常の母音字 *i* の分布を対比すると明らかな偏りがあり、区別されていると考えられる。*I* が現れる 34 例のうち、2 例¹² を除いて以下の (i, ii) いずれかにあてはまる。

(i) 近称の指示詞 '*di*': CT においては '*di*'。

XT においてこの語はすべて '*di*' と綴られており、'*di*' という形式は現れない。これに対して、例えば、話題標識 *ni* が *niI* のように反転字を用いて綴られることは、XT においては無い。

(ii) 母音で終わる語に後続する属格標識。

(a) '*dod paI* *dus* 「欲する時」 (CT: '*dod pa'i tshe*)

欲する [現在]-[名接. 属格] 時

(b) *thugs rje chen po 'i sems* 「大悲心」 (CT: *thugs rje chen po'i sems*)

悲心 大きい [属格] 心

(cf.) '*dod paI* *mye* (27:6) 「欲望の火」

欲する (*pa'i* [名接. 属格]) 火

(ii) の場合はさらに '*i*-'*I* の使い分けが見られ、上記 (b) のように独立した音節¹³ として表記されるときは '*i*' と綴られ、¹⁴ 上記 (a) のように音節が融合するときのみ -*I* が用いられる。このように音節区切りがなく V-*I* と綴られるのは、いずれも母音 *a* に属格標識が後続する場合である。¹⁵

西田 (1987: 124) は *i* と *I* が音価の違いを反映するとしている。すなわち、*i* [i] vs. *I* [i:] という対立が古い時代にあったという。音価について XT の例から推測することは難しいが、(ii) の例においては、*a* と融合する途上の母音を *I* によって表示していた可能性が高い。現代チベット語においては、母音終わりの語に属格標識が接続した形式 -V'*i* の母音は融合しており、-*a'i* は中央方言においては [-e:]、ラブラン方言においては [-i:] と発音される。¹⁶ (cf.) の形式は古チベット語にも古典チベッ

¹² '*chI ba'I dus kyi tshe phyogs bcu'I*... (10:4) 「死ぬときの命は、十方の……」 '*chI* は CT では '*chi* 「死ぬ [現在/未来]」に対応する。後者の -*I* は (ii) と同様属格標識だが、母音 -*a* 以外に後続する唯一の例である。¹³ 音節の区切りがある場合、その位置にツェク (音節区切り点) が記される。転写では半角スペースで表す。¹⁴ この原則に反するのは 1 例のみ: *gsod pa'i tshe* (殺す [現在]・[名接. 属格]・時) 「殺す時」¹⁵ ここに当てはまる例で XT に現れるのは、すべて名詞接尾辞 *pa/ba* で終わる語である。

¹⁶ ラブラン方言の発音は Gesang-Jumian and Gesang-Yangjing (2002: 253) による。

ト語にも見られない形式で、ラブラン方言に近いように見える。例は少ないが、¹⁷ アムド方言群に属する口語の影響を受けている可能性も考えられる。¹⁸

(2) 母音終わりの名詞に後続する属格標識 'i が独立した音節として現れうる。CT においては、通常は直前の末尾音節に融合して -V'i と綴られる。韻文において 1 音節を形成する必要がある場合は、かわりに yi という独立形式が用いられる。前項 (1-ii) 参照。

(3) 口蓋化両唇鼻音 my- が残存している。例：myed (XT) vs. med (CT) 「無い」； myig (XT) vs. mig (CT) 「眼」； myi (XT) vs. mi (CT) [否定辞]

(4) 接語の同化が不完全である。

(i) tu/du (於格)： rtse gcig du 「専念して」、... dag du 「～[複数]に」(CT: -g, -b に後続すると tu¹⁹)

(ii) cing/zhing (単純接続)： 'don cing / 'don zhing 「誦して」(両形式が併存), gsal cing 「現れて」(CT: -n, -l の後は zhing)

(iii) 'am (疑問・選択)： dge slong 'am dge slong ma 「比丘あるいは比丘尼」

比丘 か 比丘尼

(CT: 直前の音節が末子音を持つ場合、その末子音が 'am の初頭にコピーされる。この例では ngam となる。)

(5) 数箇所に、用いられる語彙の違いが見られた。時代差を反映すると考えられるもののみ示す。

(i) rjes su yid rang (4:2) 「歡喜する」(CT: rjes su yi rang)

(ii) CT では接続詞 nas, pas が用いられる箇所で、接続詞 na が現れる。

a. rims nad bsal na tshe ni ring bar 'gyur// (26:5)

疫病 取り除く[過去] [na] 寿命 [話題] 長い-[名接. 於格] 変わる

「疫病を克服して、寿命は長くなる」(CT [P/D]: nas 「～(して)から」)

b. [mchil] ma lan gsum byugs na skrang [pa zhi//] (27:2)

唾 回 三 塗る[過去] [na] 腫れ 治まる

「唾を三回塗って、腫れは治まる」(CT [P/D]: pas 「～することによって」)

上記 (i) では、XT の yid 「心」が、CT (P/D) では yi という形式に対応する。rjes

¹⁷ byad stem dug mi khyim (25:3) 「呪詛および毒で穢れた家」も同様の例と考えられる。mi は CT では ma'i に対応する。¹⁸ ただしこの点についてはなお検討が必要である。ラブラン方言をはじめとする現代アムド方言群の多くにおいて、文語の音節末母音 -i に対応する発音は [-ə] となっており、必ずしも -a'i [-i] において同じ表記がなされる根拠はない。¹⁹ 音節末閉鎖音が無声化したため。

su yi rang は “to rejoice, to enjoy” を意味する連語である (Jäschke 1881: 182)。ここに含まれる *yi* という形式については, Jäschke (1881: 508) に “in some combination instead of *yid*” とある。ここでの XT と CT の違いは, 古くは *yid* が用いられていた慣用句で後に *yi* が定着したことを反映しているのではないかと考えられる。

(ii) において XT に用いられる形式「[動詞過去形] + *na*」を古典チベット語的に訳せば「～したならば」という条件節になり, 文脈に合わない。動詞と接続詞 *na* の間に名詞化接辞 *pa/ba* があれば, 古典チベット語としても時を表す節「～したとき」となり, 文脈に合う解釈が可能となる。これについては, 山口 (1998: 401) に「敦煌文献や古代碑文の場合, 『時』を表す場合も接尾辞を置かないで, 条件を示す場合と全く同様に ཏ [na] を従えた」と記述されている。この箇所は偈頌であり, 音節数の制限がある。つまり, OT および XT においてはこの音節数で表現できていた時を示す節が, P/D すなわち CT の時代には *pa/ba* という音節を挿入しなければ形成できなくなったため, 音節数を変えず, かつ, より文脈に合う接続詞である *nas, pas* に変更されたのではないかと考えられる。

このほか, *rnams* (XT 4:6) 「[複数]」 vs. *thams cad* (CT) 「すべて」, *bgregs* (XT 23:2, 25:6) vs. *bgegs* (CT) 「邪魔」などいくつかの語彙の相違が見られたが, 今のところ古チベット語的特徴を反映しているかどうかは不明である。

(6) 一部に動詞活用様式の違いが見られる。

(i) CT: *byed* 「する [現在]」 vs. XT (3:3): *bya* (CT なら未来形)

(ii) CT: '*don* 「唱える [現在]」 vs. XT (4:6): *gdon* (CT なら未来形)

(iii) CT: *bsal* 「取り除く, 浄める [過去]」 vs. XT: *gsal* (10:2)

チベット文語の他動詞語幹には現在・過去・未来・命令の 4 形式がある。西田 (1957: 41–44) によれば, この活用様式が 7 世紀の文法記述と古典期の規範とで異なっていた。上記の動詞形式の違いは, この活用様式の変遷を反映している可能性がある。(i) の *byed* は語根 *bya* に接尾辞 **-ed* を付加することにより形成されているが, 7 世紀にはこの現在形の接尾辞はなかったという。よって XT に現れる形式 *bya* は, 現在形であった可能性もある。²⁰ (ii) '*don/gdon* はいずれも語根 *don* に接頭辞が付加された形式で, 古典期には '*-* は現在形に, *g-/d-* は未来形に用いられた。しかし 7 世紀には現在形の接頭辞が **g-/d-* であり, 未来形の接頭辞はなかったという。よって, XT の *gdon* も現在形であるかもしれない。(iii) *bsal* (現在形: *sel*; 語根: *sal*²¹) には, *gsal* という活用形はない。しかし, 現在形に接頭辞 **g-/d-* が

²⁰ 未来形とも考えられる。7 世紀の現在形には一貫して接頭辞 **g-/d-* が付加されたと考えられているのに対し, この形式には接頭辞がない。 ²¹ **sal-ed* > *sel* [現在] と考えられる。

用いられ、接尾辞 *-ed が付加されなかった時代であれば、現在形として用いられていた可能性がある。

ただし、以上のような古典チベット語と異なる動詞活用形は XT において散発的にしか現れない。たとえば (i) *bya* が現れる直前の行に、古典チベット語の現在形と同じ *byed* が現れる。*byed* は、西田 (ibid.) の想定する 7 世紀の活用様式には存在しなかった形式である。以上のことから、XT は動詞活用様式について概ね古典期の規範に従っているものの、いまだ過渡期にあり、一部で混同が見られると考えておく。

(7) 字形の違い：sp- (XT: སྤྱ་ ; CT: སྤྱ); 旗の付いた 'a (XT: འ་ ; CT: འ)

(8) 句読点法の違い：(第 4.1 節参照)

3.2 古典チベット語的特徴

XT67a は、前節で挙げた以外のほとんどの点において、第 2 次改定で定められた古典チベット語の規範に従っている。古チベット語に特徴的な音節末子音連続における -d (-VCd) はすでに消失しており、一例も見られない (*phyind* [OT]: *phyin* [XT/CT] 「行く [過去]」)。古チベット語期は音節初頭主子音の有声性・帯気性に揺れがあったことも知られているが、この現象も現れない (*cang* ~ *chang* [OT]: *chang* [XT/CT] 「酒」)。用いられる語彙もほとんど古典期の訳と同じである。

3.3 XT67a の言語的特徴

前節までに挙げてきた特徴から、XT67a は、古チベット語から古典チベット語への過渡期、すなわち、第 2 次改定における規範が定められてからそれが浸透するまでの時期に成立したものであると言える。ほとんどの語彙が古典チベット語の仏典と共通していることから、仏典訳語については第 2 次改定の規範に従っていると思われる。それに対し、綴り字は部分的にしか規範に従っておらず、-VCd は消失しているのに *my-* は残存しているなど、移行のあり方を示すものとして興味深い。さらに、古チベット語のものでも古典チベット語のものでもない特徴が一部に観察される。これについては当時の口語が影響している可能性もあるだろう。

4 チベット文転写テキストと訳注

4.1 転写法について

チベット文のローマ字転写は基本的に拡張ワイリー方式 (Fukuda 1997) でおこなう。ただし、一般に用いられる転写法はいずれも古典チベット語の規範を前提としているため、古チベット語の特徴を残す XT67a のテキストを転写するには適切ではない部分がある。そこで、本稿の転写は便宜的に以下の点で拡張ワイリー方式を逸脱した方法をとる。

- 古典チベット語の正書法では、読点に当たるチクシェー“/”(| : 一垂線)の書き方について、音節末の -g の後では省略し (ལྷ), -ng のあとではツェク (: 音節区切り点) と重ねて書く (ལྷ|) というのが慣例になっている。転写の際にはこれらはいずれもチクシェーを伴う形と解釈され、それぞれ“-g/”, “-ng/” と転写される。ところが、XT67a においてはこの慣例があてはまらず、-g のあとでもチクシェーが書かれたり (ལྷ|²²), 任意の文字のあとでツェクと重ねて書かれたりする (例: -r のあと: རྩ|)。そこで、以下の転写では“-g/” は実際にチクシェーが書かれていることを表し, “-ng/”, “-r/” のように末子音とスラッシュの間にドットを入れることでチクシェーの前にツェクが重ねて書かれていることを表す。ニシェー (|| : 二垂線), シシェー (|| || : 四垂線) についても同様である。なお、北京版・デルゲ版を転写する際は垂線の前の点を表示するドットを使用せず、一般的な拡張ワイリー方式に従う。
- テキスト中に「--」ないし「-」と表示したのは、中央の柱である。²³

また、各行頭の括弧内は、本来の葉番号および行番号を示す。

4.2 XT67a テキスト

(2:1) [] - spyan ras gzigs dbang phyug gi

(2:2) [] - grangs myed dpag du myed pa'I

²² この形式は古典チベット語においては -g のあとにチクシェーよりも大きな区切りを表すニシェーがあることを表すため, “-g/” と転写される。これに対し, XT67a においては -g のあとにニシェーがそのまま書かれる形式 (ལྷ| ||) が見られる。²³ チベット語の転写では複合語の表記の際に音節間を「-」で繋ぐ場合があるが、本稿ではこのようなハイフンの使用はしない。また、拡張ワイリー方式では g-y... という転写の際にハイフンを用いるが (ワイリー方式の g.y... に対応), 使用個所が異なるため、柱を表示するハイフンと紛らわしくなることはない。

- (2:3) [] - tshe 'phags pa spyang ras gzigs
 (2:4) [] - nas thal mo sbyar zhing/ bcom
 (2:5) [] - gsol to// nga la 'dI lta bu
 (2:6) [] - chen po zhes zer/ sems
 (3:1) can kun kyis myi dge ba'I sdig pa - - shin du lci ba'I sgrub pa./ bdud
 (3:2) dang sgrub pa 'jigs pa thams cad - - zhi bar byed pa 'dod pa thams cad
 (3:3) tshim bar bya ba'I phyir./ ngas - - bshad do// // bcom
 (3:4) ldan 'das la bshad pa'I - - gnang ba zhus nas/ de
 (3:5) nas bcom ldan 'das kyis/ - - rigs kyi bu khyod kyis thugs
 (3:6) rje chen po 'i sgo nas gzungs - - bshad bar 'dod pa'I dus la
 (4:1) bab bo// myur bar bshad du - - gsol./ nga dang sangs rgyas
 (4:2) thams cad kyis kyang rjes su yid - - rang ngo// byang chub sems dpa'
 (4:3) 'phags pa spyang ras gzigs - - kyi dbang phyug./ bcom ldan
 (4:4) 'das la 'dI skad ces gsol - - to// gal te dge slong 'am dge
 (4:5) slong ma/ dge bsnyen 'am dge - - bsnyen ma/ khye'u 'am bu mo
 (4:6) gdon ba dang/ 'chang bar 'dod - - pa/ sems can rnams kyi ched
 (5:1) du thugs rje chen po 'i sgo nas/ - - thog mar 'dI lta bu sems bskyed
 (5:2) par bya'o// //spyang ras gzigs - - dbang thugs rje che la phyag 'tshal
 (5:3) lo// bdag gis chos rnams - - thams cad myur du rtogs par shog
 (5:4) spyang ras gzigs dbang thugs - - rje che la phyag 'tshal lo//
 (5:5) bdag gis ye shes myig ni myur - - du thob par shog// spyang ras
 (5:6) gzigs dbang thugs rje che la - - phyag 'tshal lo// bdag gis
 (6:1) sems can thams cad myur du - []
 (6:2) gzigs dbang thugs rje che la - []
 (6:3) thabs mkhas pa dag myur du thob - []
 (6:4) dbang phyug thugs rje che la phyag - []
 (6:5) shes rab gru yis sgrol bar - []
 (6:6) dbang thugs rje che la phyag 'tshal - []
 (9:1) [] - ngan sems rang nyid dul bar
 (9:2) [] - phyin nas// rang nyid shes rab che
 (9:3) [] - btab nas/ sems rtse gcig du
 (9:4) [] - rjes su dran bar bgyi 'o//
 (9:5) [] - de bzhin gshegs pa 'od dpag

- (9:6) [] - gzungs lan gcig gam lan
- (10:1) bdun gyi bar du bton na/ skal - - ba 'bum phrag brgya stong snyed du./
- (10:2) 'khor bar 'gyur ba'I kha na mtho - - ba'I lci ba rnams gsal cing
- (10:3) 'byang bar 'gyur lags so/ - - / gal te thugs rje chen po 'dI
- (10:4) 'don cing 'chang na/ 'chI ba'I - - dus kyi tshe phyogs bcu'I de
- (10:5) bzhin gshegs pa rnams der - - gshegs nas phyag rkyong bar
- (10:6) 'gyur bas/ bsams pa - - bzhin du sangs rgyas kyi zhing
- (11:1) gang dang gang du skye bar 'gyur lags - - so// bcom ldan 'das la yang
- (11:2) 'dI skad ces gsol to.// bcom - - ldan 'das sems can gang la
- (11:3) la zhig thugs rje chen po 'i rigs - - sngags 'dI 'don cing yongs su
- (11:4) 'dzin pa dag./ gal te ngan 'gro - - gsum po dag du ltung bar gyur
- (11:5) na./ bdag nam yang mngon bar - - rdzogs par sangs rgyas par myi
- (11:6) bgyi 'o// thugs rje chen po 'i - - rigs sngags 'dI 'don cing
- (12:1) yong su 'dzin pa dag./ gal te - - ting nge 'dzin dag spobs pa tshad
- (12:2) myed pa snyed thob par ma gyur na/ - - bdag nam yang mngon bar rdzogs
- (12:3) par 'tshang rgya bar myi bgyi 'o/ - - / thugs rje chen po 'i rigs sngags
- (12:4) 'dI 'don cin yongs su 'dzin pa - - dag// gal te tshe 'dI nyid la/
- (12:5) smon pa thams cad ji ltar smon pa - - bzhin du grub par ma gyur na/
- (12:6) thugs rje chen po 'i sems kyi - - gzungs zhes myi bgyid lags
- (13:1) ste/ myi dge ba rnams dang./ sems - []
- (13:2) gtogs lags so// bud myed gang - []
- (13:3) su skyo nas skyes pa'I lus thob - []
- (13:4) thugs rje chen po 'i sems kyis - []
- (13:5) yongs su gzung bas/ gal te - []
- (13:6) gyur te/ skyes pa'I lus thob par - []
- (23:1) [] - gzungs 'dI 'don zhing yongs su
- (23:2) [] - pa dang bgregs yongs su bsal
- (23:3) [] - su bcad pa 'dI dag smras so.// //
- (23:4) [] - ba las// stag dang spyang ki
- (23:5) [] - pa sbrul dang 'dre srin 'phrad
- (23:6) [] - pa thos nas gnod myi nus//
- (24:1) gang zhig chu bo rgya mtsho zhugs pa - - las// gdug pa'I klu dang chu srin
- (24:2) ma rungs dang// gnod sbyin srin - - po nya dang ru sbal dag// gzungs

- (24:3) 'dI thos nas so sor byer bar - - 'gyur// gang zhig g.yul sprad
 (24:4) dgra yis bskor ba 'am// chom - - rkun ma rungs nor ni 'phrog pa'I
 (24:5) tshe// rtse gcig thugs rje chen po - - gzungs bzlas na// de dag rtse
 (24:6) sems bskyed nas ldog par 'gyur - - // gang zhig rgyal po gyod la thogs
 (25:1) pa dang// lcags sgrog khong sgril - - btson rar chud pa'I tshe// rtse gcig
 (25:2) thugs rje chen po gzungs bzlas - - na// rgyal po brtse sems kyis ni
 (25:3) gtong bar 'gyur// gang zhig byad - - stem dug mi khyim zhugs te//
 (25:4) zas skom dug can gis ni gsod - - pa'i tshe// rtse gcig thugs rje
 (25:5) chen po gzungs bzlas na// dug - - ni zas skom zil dngar nyid du
 (25:6) 'gyur// bud myed sbrum ma bu ni - - btsa' ba'I tshe// bdud kyis bgregs
 (26:1) byas sdug bsngal myi bzod tshe// rtse - - gcig thugs rje chen po gzungs
 (26:2) bzlas na// 'dre gdon byer nas - - bde bar btsa' bar 'gyur// klu
 (26:3) gdon gtum pos gdug pa'I dbugs - - btang bas// tsha ba'I nad kyis nyen
 (26:4) nas 'chir nye tshe// rtse gcig - - thugs rje chen po gzungs bzlas
 (26:5) na// rims nad bsal na tshe ni - - ring bar 'gyur// klu gdon rgyu
 (26:6) bas gtse te skrang pa dang// shu - - 'bras myi bzad rnag khrag 'dzag
 (27:1) pa'I tshe// rtse gcig thugs rje - []
 (27:2) ma lan gsum byugs na skrang - []
 (27:3) bskyod pas na// byad stem sngags - []
 (27:4) gcig thugs rje chen po gzungs - []
 (27:5) gdon de myi la 'dud// sdig - []
 (27:6) pa'I tshe/ 'dod pI mye mched sems - []

4.3 翻訳と注

[1] XT67a をもとに、P380 および D723 によって補ったテキスト、[2] 日本語訳、[3] 注（あれば）、[4] 対応する漢文（大1060）の順に示す。

- [3] の注記は XT67a の特徴に関わるものについて、言語学的観点から行う。注を表示する記号として、†, ‡, §, ¶ を用いる。P380/D723 との相違を示すのみの注は、脚注にまわす。
- 脚注の表記は次のとおり。角括弧内の斜体文字 [*ital.*] は P380/D723 にあって XT67a にない文字列、丸括弧内のローマン体文字 (rom.) は XT67a にあって P380/D723 にない文字列であることを表す。また、脚注内文字列の左肩

に付した * は P380/D723 における古典チベット語の規範等に合わない綴り字を示す。

- 上付き括弧は XT67a の葉および行番号を表す。
- XT67a の欠落部分は、XT67a の解釈に必要な範囲で、P380 によって [ital.] のように角括弧で括った斜体字で補い、さらに D723 と異なる部分を脚注に示した。
- 欠落部分を P380/D723 によって補って訳した場合、XT67a の欠落部におおよそ相当する訳文を [] で括った。
- 漢文にはあるがチベット文では全く訳出されていない部分については、漢文を省略した。
- P は P380, D は D723, XT は XT67a を表す。

～ (2.2)

[...(P380: rgyud.tsa.39b8; D723: 6.tsa.201b4) 'phags pa spyan ras gzigs dbang phyug thugs rje chen po la phyag 'chal lol// 'di skad bdag gis thos pa dus gcig nal bcom ldan 'das ri bo po ta²⁴ la] ^(2:1)spyan ras gzigs dbang phyug gi [gnas na byang chub sems dpa'] ^(2:2)grangs myed²⁵ dpag du²⁶ myed pa'i²⁷['khor gyis bskor nas/]

「[大悲聖觀世音自在菩薩に礼拝いたします。以下のような話を私が聞いたあるとき、世尊は普陀落山の] 觀世音自在菩薩の [処で] 無数無量の [菩薩の眷族に囲まれており、]」

(106a1-2) 如是我聞。一時釈迦牟尼佛。在補陀落迦山觀世音宮殿宝莊嚴道場中。…… (106a5) 与無央数菩薩摩訶薩俱。

(2.2) ～ (2.5)

[de'i] ^(2:3)tshe 'phags pa spyan ras gzigs [dbang phyug stan las lang] ^(2:4)nas thal mo sbyar zhing/ bcom [ldan 'das la 'di skad ces] ^(2:5)gsol to// nga la 'di²⁸ lta bu ['i(†) gzungs yod ming ni thugs rje] ^(2:6)chen po zhes zer/

「[その] 時、聖觀世音 [自在は、座を立ち] 合掌して、[世尊に次のように] 申し上げた。『私には次のような [陀羅尼があり、名は] 大 [悲心 (陀羅尼)] と言います。』」

† P/D: bu'i: XT では 'i が独立した音節として現れうるため、5 行目末の bu から切り離されて、欠落部である 6 行目初頭にあつたと考えられる。

²⁴ D: ta ²⁵ P/D: med ²⁶ P/D: tu ²⁷ P/D: med pa'i ²⁸ P/D: 'di

(106b18-20) 爾時觀世音菩薩從座而起整理衣服向佛合掌。白佛言世尊。我有大悲心陀羅尼呪今當欲說。

sems^(3:1) can kun kyis²⁹ myi³⁰ dge ba'I³¹ sdig pa shin du³² lci ba'I³³ sgrib pa./³⁴ bdud
(3:2) dang sgrib pa³⁵ 'jigs pa thams cad zhi bar byed pa 'dod pa³⁶ thams cad^{37(3:3)} tshim
bar³⁸ bya ba'I³⁹ phyir./⁴⁰ ngas bshad do// //41 bcom^(3:4) ldan 'das la bshad pa'I⁴²
gnang ba zhus nas/⁴³

『すべての有情が、不善なる罪惡、極めて重い障害、魔と障碍を恐れることのすべてを消滅させることを欲しているのを、すべて満足させるために、私は述べます。』
(と言って) 世尊に述べる許可を求めると、

(106b20) 為諸衆生…… (106b21-2) 滅除一切惡業重罪故。離障難故。……

(106b23-4) 遠離一切諸怖畏故。…… (106b25) 惟願世尊慈哀聽許。

de^(3:5) nas bcom ldan 'das kyis/⁴⁴ rigs kyi bu khyod kyis thugs^(3:6) rje chen po 'i⁴⁵ sgo
nas gzungs⁴⁶ bshad bar 'dod pa'I⁴⁷ dus la^(4:1) bab bo// myur bar bshad du gsol./⁴⁸ nga
dang sangs rgyas^(4:2) thams cad kyis kyang rjes su yid⁴⁹ rang(†) ngo//

「すると世尊は『善男子よ、汝が大悲心によって陀羅尼を言わんと欲するときになった。すぐに言ってください。私とすべての仏もまた歡喜する』(と言われた)」

† rjes su yid rang : XT67a の yid 「心」が P, D いずれも yi となっている。慣用句の形式の推移を示す例と考えられる。第 3.1 節 (5-i) 参照。

(106b5-7) 仏言善男子。汝大慈悲安樂衆生欲言神呪。今正是時宜應速說。如來隨喜諸佛亦然。

byang chub sems dpa'^(4:3) phags pa spyang ras gzigs kyis⁵⁰ dbang phyug./⁵¹ bcom ldan
(4:4) 'das la 'di⁵² skad ces gsol to//⁵³ gal te⁵⁴ dge slong 'am⁵⁵ dge^(4:5) slong ma⁵⁶/ dge
bsnyen 'am⁵⁷ dge bsnyen ma⁵⁸/ khye'u 'am⁵⁹ bu mo^{60(4:6)} gdon ba⁶¹ dang/⁶² 'chang
bar 'dod pa/⁶³ sems can rnams^{64(†)} kyi ched^(5:1) du thugs rje chen po 'i⁶⁵ sgo nas/⁶⁶
thog mar 'di⁶⁷ lta bu⁶⁸ sems bskyed^(5:2) par bya'o// //69

²⁹ P/D: gyi ³⁰ P/D: mi ³¹ P/D: ba'i ³² P/D: tu ³³ P/D: ba'i ³⁴ P/D: (/) ³⁵ D: (sgrib pa)
³⁶ P: *ba ³⁷ P/D: [rab tu] ³⁸ P/D: par ³⁹ P/D: byed pa'i ⁴⁰ P/D: (/) ⁴¹ P/D: (/) ⁴² P/D: pa'i
⁴³ P: (/) ⁴⁴ P/D: (/) ⁴⁵ P/D: po'i ⁴⁶ P: *bzungs ⁴⁷ P/D: pa'i ⁴⁸ P: // ⁴⁹ P/D: yi ⁵⁰ P/D:
(kyi) ⁵¹ P/D: [gis] (/) ⁵² P/D: 'di ⁵³ D: (/) ⁵⁴ P: *ta ⁵⁵ P/D: ngam/ ⁵⁶ P/D: ['am] ⁵⁷ P/D:
nam/ ⁵⁸ P/D: ['am] ⁵⁹ D: [/] ⁶⁰ D: bu mos ⁶¹ P/D: 'don pa ⁶² D: (/) ⁶³ P/D: pas(/) ⁶⁴ P/D:
thams cad ⁶⁵ P/D: po'i ⁶⁶ P/D: (/) ⁶⁷ P/D: 'di ⁶⁸ P: [yi]; D: bu'i ⁶⁹ P/D: (/)

「聖観自在菩薩は世尊に次のように申し上げた。『もし比丘や比丘尼、優婆塞や優婆夷、童男童女が唱えて保持したいと欲するなら、その者は、諸々の衆生のために大悲心から発して、最初に次のように発心するべきである。』」

† *sems can rnams* 「諸々の衆生」：P/D では複数を表す接尾辞 *rnams* のかわりに *thams cad* 「すべて」が用いられており、「あらゆる衆生」の意味になる。今のところ、意味の変遷に伴う相違であるかどうかは不明。

(106c14-16) 若有比丘比丘尼優婆塞優婆夷童男童女欲誦持者。於諸衆生起慈悲心。先当従我発如是願

(†) *spyān ras gzigs dbang* (†)⁷⁰ *thugs rje che* (†)⁷¹ *la phyag 'tshal* (5:3) *lo// bdag gis chos rnams thams cad myur du rtogs par shog* ^{72(5:4)} *spyān ras gzigs dbang thugs rje che la phyag 'tshal lo//* (5:5) *bdag gis ye shes myig*⁷³ *ni myur du thob par shog// spyān ras* (5:6) *gzigs dbang thugs rje che la phyag 'tshal lo// bdag gis* (6:1) *sems can thams cad myur du [sgrol bar shog// spyān ras]* (6:2) *gzigs dbang thugs rje che la [phyag tshal lo// bdag gis]* (6:3) *thabs mkhas pa dag myur du thob [par shog// spyān ras gzigs]* (6:4) *dbang phyug thugs rje che la phyag ['tshal lo// bdag ni myur du]* (6:5) *shes rab gru yis sgrol bar [shog// spyān ras gzigs]* (6:6) *dbang thugs rje che la phyag 'tshal [lo// bdag ni myur du sdug bsdal mtsho las 'da' bar shog//* (P380: 40b1 ; D723: 6.tsa.202a3) ...]

「『大悲観自在菩薩に礼拝いたします／私があらゆる諸法をすぐに理解できますように。／大悲観自在菩薩に礼拝いたします／私が智慧の眼をすぐに得られますように。／大悲観自在菩薩に礼拝いたします／私が全ての衆生をすぐに [済度できますように。／] 大悲観世音菩薩に [礼拝いたします／私が] 諸々の善功方便をすぐに得 [られますように。／] 大悲観世音菩薩に礼拝いたします／ [私がすぐに] 智慧の船によって救われますように。／ [大悲観世音菩薩] に礼拝いたします／……”』」

† ここからの部分では偈頌が示される。XT67a では一区切り 11 音節の韻文になっている。最初の一区切りの部分が XT67a と P, D で異なっているが、音節数を重視するなら XT67a の方が形式が整っていると言える。音節数の調整のために XT67a では *spyān ras gzigs dbang phyug* 「観世音自在」の *phyug* が省略されるが、P, D では初回だけ残っている (†)。また、*che* 「大きい」が D では同義で 2 音節の *chen po* になっているために、音節数が合わない (†)。

⁷⁰ P/D: [*phyug*] ⁷¹ D: *chen po* ⁷² P/D: [//] ⁷³ P/D: *mig*

(106c20-22) 南無大悲觀世音 願我速知一切法 / 南無大悲觀世音 願我早
得智慧眼 / 南無大悲觀世音 願我速度一切衆 / 南無大悲觀世音 願我早得
善方便 / 南無大悲觀世音 願我速乘般若船 / 南無大悲觀世音

(†) [...(P380: 40b4 ; D723: 6.tsa.202a6) *bdag ni lha min gnas song na//*] ^(9:1)ngan
sems rang nyid dul bar [*shog// bdag ni dud 'gro gnas*] ^(9:2)phyin nas/⁷⁴rang nyid shes
rab che [*thob shog// de skad du smon lam*] ^(9:3)btas nas/⁷⁵sems rtse gcig du⁷⁶ [*bdag
gi ming nas 'don cing*] ^(9:4)rjes su dran bar⁷⁷ bgyi 'o//

「『…… [私が修羅道に行ったとしたら / 悪い心が自ずと温和になりますように。
 / 私が畜生道に行ってから (P/D: 行ったとしたら) / 自ずと大いなる智慧を得ら
れますように。』 [以上のように発願して,] 心は集中して [私の名から発し,] 続け
て念ずるようにする。』」

† 第6葉までとは音節数の異なる偈頌。XT67aが半葉欠けているため確言できない
が、一区切り7音節の韻文になっているようである。

(107a2-4) 我若向修羅 惡心自調伏 / 我若向畜生 自得大智慧
発是願已。至心称念我之名字。

[*gzhan yang bdag gi ston pa*] ^(9:5)de bzhin gshegs pa 'od dpag [*med kyi mtshan 'don
cing/ de nas*] ^(9:6)gzungs⁷⁸ lan gcig gam lan ^(10:1)bdun gyi bar du bton na/⁷⁹skal⁸⁰
ba⁸¹ 'bum phrag brgya stong⁸² snyed du./^{83(10:2)}'khor bar 'gyur ba'⁸⁴kha na mtho
ba'⁸⁵lci ba rnams gsal⁸⁶ cing ^(10:3)'byang⁸⁷ bar 'gyur lags so// gal te thugs rje chen
po 'di^{88(10:4)}'don cing 'chang na/⁸⁹'chī ba'⁹⁰dus kyi tshe⁹¹ phyogs bcu'⁹²de
^(10:5)bzhin gshegs pa rnams der gshegs nas phyag rkyong bar ^(10:6)'gyur bas/⁹³bsams
pa bzhin du sangs rgyas kyi zhing ^(11:1)gang dang gang du skye bar⁹⁴ 'gyur lags so//
「『さらに、私の大師である] 阿弥陀如来 [の御名から発し, そして] 陀羅尼を1
回ないし7回の間唱えれば、縁が百億ほどにまで溜まってしまったときに、諸々の
重大な罪過が現れるのを、取り除いて清めることになるのである。もし、この大悲
心を誦して持するなら、死ぬときの命は、十方の如来たちがおいでになって、御手
を伸ばすようになるので、思った通りに諸処の仏国土に生まれることになるので
ある。』」

⁷⁴ P/D: *song na//* ⁷⁵ D: (/) ⁷⁶ D: *tu*; P: **du* ⁷⁷ P/D: *par* ⁷⁸ D: [*'di*] ⁷⁹ P: // ⁸⁰ P/D: *bskal*
⁸¹ D: *pa* ⁸² P/D: [*ji*] ⁸³ P/D: (*du./*) ⁸⁴ P/D: *ba'i* ⁸⁵ P/D: *ba'i* ⁸⁶ P/D: *bsal* ⁸⁷ P: '*byung*
⁸⁸ P/D: '*di* ⁸⁹ D: (/) ⁹⁰ P: '*chi ba'i* ⁹¹ P/D: [*/*] ⁹² P/D: *bcu'i* ⁹³ P/D: (/) ⁹⁴ D: [*'dod pa de
dang der skye bar*]

(107a4-7) 亦応專念我本師阿弥陀如来。然後即当誦此陀羅尼神呪。一宿誦滿五遍。除滅身中百千万億劫生死重罪。……(107a7-9) 若諸人天。誦持大悲章句者。臨命終時十萬諸仏皆來授手。欲生何等仏上⁹⁵。隨願皆得往生。

bcom ldan 'das la yang^{96(11:2)'}di⁹⁷ skad ces gsol to.// bcom ldan 'das sems can gang la
(11:3)la zhig thugs rje chen po 'i⁹⁸ rigs⁹⁹ sngags 'di¹⁰⁰ 'don cing yongs su (11:4)'dzin pa
dag./¹⁰¹ gal te ngan 'gro¹⁰² gsum po dag du¹⁰³ ltung bar gyur (11:5)na./¹⁰⁴ bdag nam
yang mngon bar rdzogs par sangs rgyas par¹⁰⁵ myi^{106(11:6)} bgyi 'o// thugs rje chen po
'i¹⁰⁷ rigs¹⁰⁸ sngags 'di¹⁰⁹ 'don cing (12:1)yong su 'dzin pa dag./¹¹⁰ gal te ting nge 'dzin
dag¹¹¹ spobs pa tshad (12:2)myed¹¹² pa¹¹³ snyed thob par ma gyur na/¹¹⁴ bdag nam
yang mngon bar rdzogs (12:3)par 'tshang rgya bar myi¹¹⁵ bgyi 'o//

「世尊にまた次のように申し上げた。『世尊よ、誰か衆生で、この大悲心の真言を誦して完全に堅持する者たちが、もし、三悪趣に墮ちるようなことになれば、私はいつまでも仏陀にはなりません。世尊よ、誰か衆生で、この大悲心の真言を誦して完全に堅持する者たちが、もし、諸々の三昧と無量の弁才を得られなかったら、私はいつまでも仏陀にはなりません。』」

(107a9-11) 復白仏言。世尊若諸衆生。誦持大悲神呪墮三惡道者。我誓不成正覺。……(107a12-4) 誦持大悲神呪者。若不得無量三昧弁才者。我誓不成正覺。

thugs rje chen po 'i¹¹⁶ rigs¹¹⁷ sngags (12:4)'di¹¹⁸ 'don cin yongs su 'dzin pa dag//¹¹⁹
gal te tshe 'di¹²⁰ nyid la/^{121(12:5)} smon pa thams cad ji¹²² ltar smon pa bzhin du grub
par ma gyur na/^{123(12:6)} thugs rje chen po 'i sems kyi gzungs zhes myi¹²⁴ bgyid¹²⁵ lags
(13:1)ste¹²⁶/ myi¹²⁷ dge ba mams dang./¹²⁸ sems [rtseg gcig du ma bgyis pa ni ma]
(13:2) gtogs lags so//

「『世尊よ、とある衆生で、この大悲心の真言を誦して完全に堅持する者たちが、もし、今生において、すべての願いをどのようにであつても願つた通りに成就することにならなかつたら、大悲心の陀羅尼と言いなすことはないのであり、(ただし) 諸々の不善なるもの(願い)と心が[集中していないもの(願い)は]含まないのである。』」

⁹⁵ 原注: 上=土? ⁹⁶ P: (yang) ⁹⁷ P/D: 'di ⁹⁸ P/D: po'i ⁹⁹ P/D: rig ¹⁰⁰ P/D: 'di ¹⁰¹ P/D: (/)
¹⁰² P/D: song ¹⁰³ P/D: tu ¹⁰⁴ P/D: (/) ¹⁰⁵ P/D: rgya bar ¹⁰⁶ P/D: mi ¹⁰⁷ P/D: po'i ¹⁰⁸ P/D: rig
¹⁰⁹ P/D: 'di ¹¹⁰ P/D: (/) ¹¹¹ P/D: dang ¹¹² P/D: med ¹¹³ P/D: [ji] ¹¹⁴ P/D: (/) ¹¹⁵ P/D: mi ¹¹⁶ P/D:
po'i ¹¹⁷ P/D: rig ¹¹⁸ P/D: 'di ¹¹⁹ P/D: (/) ¹²⁰ P/D: 'di ¹²¹ P/D: (/) ¹²² P/D: ci ¹²³ P/D: (/)
¹²⁴ P/D: mi ¹²⁵ P/D: bgyi ¹²⁶ P/D: te ¹²⁷ P/D: mi ¹²⁸ P/D: (/)

(107a4-6) 誦持大悲神呪者。於現在生中一切所求若不果遂者。不得為大悲心陀羅尼也。唯除不善除不至誠。

bud myed¹²⁹ gang [la la zhig bud med kyi lus las yong] ^(13:3)su skyo nas skyes pa'I¹³⁰
 lus thob [par 'tshal ba gang lags pa des] ^(13:4)thugs rje chen po 'i¹³¹ sems kyis¹³²
 [gzungs kyi tshig 'di 'don cing] ^(13:5)yongs su gzung bas/¹³³ gal te [bud med kyi lus las
 yongs su] ^(13:6)gyur te/¹³⁴ skyes pa'I¹³⁵ lus thob par [ma gyur na/ (P380: 41a6; D723:
 6.tsa.202b5)...

「『誰か女で、女の体によって完全に悲しみ、男の体を得る [よう欲する者は誰であれ、] 大悲心の心によって [この陀羅尼の語から発して] 完全に持すことにより、もし [女の体から完全に] 変化して、男の体を得るように [ならなかったら、……]』」

(107a6-8) 若諸々女人厭賤女身欲成男子身。誦持大悲心陀羅尼章句。若不轉女身成男子身者。

...(P380: 42a5; D723: 6.tsa.203b1) de nas byang chub sems dpa' spyan ras gzigs
 dbang phyug gis gzungs 'di bstan zin nas/ ^(23:1)gzungs 'di¹³⁶ 'don zhing¹³⁷ yongs su
 ['dzing pa dag gi ched du/ gnod] ^(23:2)pa dang ¹³⁸bregs ¹³⁹yongs su bsal [ba'i phyir/
 shin tu dang ba'i tshigs] ^(23:3)su bcad pa'di¹⁴⁰ dag smras so.// // ¹⁴¹

「・・・[尊者世尊觀世音自在はこの陀羅尼を示して、] この陀羅尼を誦して完全に [持する者たちのために、危難] と障碍を完全に消滅させるゆえに、次のような極めて清浄な諸偈頌を述べた。」

(107c26) 觀世音菩薩說此呪已。……(108c3-4) 觀世音菩薩復為誦持者。說消除災禍清涼之偈

[gang zhig ri dang 'phrog¹⁴² dgon song] ^(23:4)ba las// stag dang spyang ki [gcan zan¹⁴³
 gtum po dang/¹⁴⁴ rtsangs] ^(23:5)pa sbrul dang 'dre srin 'phrad [gyur kyang// gzungs 'di
 'don] ^(23:6)pa thos nas gnod myi¹⁴⁵ nus// ^(24:1)gang zhig chu bo rgya mtsho¹⁴⁶ zhugs
 pa las// gdug pa'I¹⁴⁷ klu dang chu srin ^(24:2)ma rungs dang// gnod sbyin srin po nya

¹²⁹ P/D: med ¹³⁰ P/D: pa'i ¹³¹ P/D: po'i ¹³² P/D: kyi ¹³³ P/D: (/) ¹³⁴ P/D: (/) ¹³⁵ P/D: pa'i

¹³⁶ P/D: 'di ¹³⁷ P/D: cing ¹³⁸ P/D: [/] ¹³⁹ P/D: bgegs ¹⁴⁰ P/D: 'di ¹⁴¹ P/D: (/) ¹⁴² D: 'brog — Jäschke (1881: 402) に “'brog dgon: solitude, wilderness” とあることから、解釈にはデルゲ版の形式を採用した。 ¹⁴³ D: gzan ¹⁴⁴ D: // ¹⁴⁵ P/D: mi ¹⁴⁶ P/D: mtshor ¹⁴⁷ P/D: pa'i

dang ru sbal dag//¹⁴⁸ gzungs^(24:3) 'di¹⁴⁹ 150 thos nas so sor byer¹⁵¹ bar¹⁵² 'gyur//¹⁵³
 「『誰かが山および荒野に行つて、] 虎と狼といった残忍な肉食獣、および/ 蜥蜴・
 蛇および小鬼に出くわす [ことになろうとも/ この陀羅尼を誦すのが] 聞こえる
 と、損なうことはできない。/ 誰かが川や海に入ったあと/ 悪しき竜、凶暴な水獣
 (マカラ)、および/ 夜叉羅刹の魚およびツノのある蝦蟇などは/ この陀羅尼が聞こ
 えれば、皆、逃げることになる』」

(108c5-6) 若行曠野山澤中 逢値虎狼諸惡獸 / 蛇虺精魅魍魎鬼 聞誦此呪
 莫能害 / 若行江湖滄海間 毒龍蛟龍摩竭獸 / 夜叉羅刹魚鼈鼉 聞誦此呪自
 藏隱

gang zhig g.yul sprad^(24:4) dgra yis bskor ba 'am//¹⁵⁴ chom rkun ma rungs nor ni
 'phrog pa 'i^{155(24:5)} tshe// rtse gcig thugs rje chen po¹⁵⁶ gzungs(†) bzlas na//¹⁵⁷ de dag
 rtse^{158(24:6)} sems bskyed¹⁵⁹ nas ldog par 'gyur// gang zhig rgyal po¹⁶⁰ gyod(†) la thogs
 (25:1) pa dang// lcags sgrog khong sgril btson rar chud pa 'i¹⁶¹ tshe// rtse gcig^(25:2) thugs
 rje chen po¹⁶² gzungs(†) bzlas na// rgyal po brtse sems kyis ni^(25:3) gtong bar 'gyur//
 「『誰かが戦をして敵に包囲される、あるいは/ 凶暴な盗賊に財物を掠奪されるとき
 / 一心に大悲心の陀羅尼を重誦すれば/ 彼らは悲心を生じて帰っていくことにな
 る。/ 誰かが王との訴訟沙汰になり、そして/ 隙間のない枷をして監獄に入るとき
 / 一心に大悲心の陀羅尼を重誦すれば/ 王の悲心によってこそ釈放されることにな
 る』」

† thugs rje chen po gzungs: この部分で2度現れる thugs rje chen po 「大悲心」に、
 P/Dではいずれも属格標識が付加されているが (... po'i), XTにはない。意味の上で
 は属格標識のある方が自然である。韻文の音節数を維持するためには、XTでは反転
 字を用いた属格標識 -I が用いられることが予想されるが、この形式は基本的に母音
 -a にしか後続しないようである (第3.1節 [1-ii] 参照)。韻文の他の箇所でもXTは
 音節数を厳格に維持していることから、XTでは ... po 'i という音節数の増える形式
 を嫌い、一方で ... po'I という形式を用いえなかったために、属格標識が脱落してい
 ると考えられる。(†) rgyal po gyod の箇所も同様。以下、この偈頌においては同様
 の現象が 25:5, 26:1, 26:4 にも一貫して現れる。

¹⁴⁸ P: / ¹⁴⁹ P/D: 'di ¹⁵⁰ P: ['don cing] ¹⁵¹ P/D: 'byer ¹⁵² P: *par ¹⁵³ P: //; D: / ¹⁵⁴ P: / ¹⁵⁵ P/D:
 pa'i ¹⁵⁶ P/D: po'i ¹⁵⁷ P: / ¹⁵⁸ P/D: brtse ¹⁵⁹ P/D: skyes ¹⁶⁰ P/D: po'i ¹⁶¹ P/D: pa'i ¹⁶² P/D: po'i

(108c9-12) 若逢軍陣賊圍繞 或被惡人奪財宝 / 至誠稱誦大悲呪 彼起慈心
復道歸 / 若為王官収録身 圜圍禁閉桎枷鎖 / 至誠稱誦大悲呪 官自開恩釈
放還

gang zhig byad stem¹⁶³ dug mi¹⁶⁴(†) khyim zhugs te// (25:4) zas skom dug can gis ni
gsod pa'i tshe(†)// rtse gcig thugs rje (25:5) chen po¹⁶⁵ gzungs bzlas na// dug ni zas
skom zil dngar¹⁶⁶(§) nyid du (25:6) gyur// bud myed¹⁶⁷ sbrum ma bu ni btsa' ba'I¹⁶⁸
tshe// bdud kyis bgregs¹⁶⁹(26:1) byas sdug bsngal myi¹⁷⁰ bzod tshe// rtse gcig thugs rje
chen po¹⁷¹ gzungs (26:2) bzlas na// 'dre gdon byer nas bde bar btsa' bar 'gyur//
『『誰か、呪詛と毒の家に入り、／毒のある飲食物で殺されそうなとき／一心に大悲
心の陀羅尼を重誦すれば／毒は甘露そのものの飲食物となる。／妊婦が息子を生む
とき／魔が邪魔をして苦を耐えきれないとき／一心に大悲心の陀羅尼を重誦すれば
／魔物は逃げて無事に生まれることになる』』

† *byad stem dug mi* : XT の *mi* が P/D では *ma'i* すなわち名詞接尾辞 *ma* に属格標識
が付加された形式に対応する。P/D に従えば次のように解釈される。「毒」を意味す
る語幹 *dug* に語幹の意味を変えない接尾辞 *ma* が付加されて 2 音節語を形成し、直
前の 2 音節語である *byad stem* と並列されている。その後、属格接尾辞が付加され
て後続の名詞を修飾している。この解釈が妥当と考えられることから、XT が *mi* と
なっているのは第 3.1 節 (1-ii-cf.) と同様の例ということになるが、ここでは反転字 *I*
ではなく *i* が現れている。

‡ *gsod pa'i tshe* : この *-i* は、直前の *pa* と同一音節に書かれているが、反転字ではな
い。第 3.1 節 (1) で述べた *i/I* の使い分けの、XT における唯一の例外である。

§ *zas skom zil dngar* : *zas skom* 「飲食物」と *zil dngar* 「甘露」が同格で並べられた構
造になっている。XT と P/D ではこの 2 つの語の順番が逆である。どちらの語順で
も問題ないが、この場合、XT のように意味上の修飾要素である *zil dngar* を後置す
る方が、チベット語としてはやや自然かもしれない。

(108a13-16) 若入野道蠱毒家 飲食有藥欲相害 / 至誠稱誦大悲呪 毒藥變成
甘露漿 / 女人臨難生産時 邪魔遮障苦難忍 / 至誠稱誦大悲呪 鬼神退散安
樂生

¹⁶³ D: *stems* ¹⁶⁴ P/D: *ma'i* ¹⁶⁵ P/D: *po'i* ¹⁶⁶ P/D: *zil dngar zas skom* ¹⁶⁷ P/D: *med* ¹⁶⁸ P/D: *ba'i*
¹⁶⁹ P/D: *bgregs* ¹⁷⁰ P/D: *mi* ¹⁷¹ P/D: *po'i*

klu^(26:3) gdon gtum pos gdug pa'I¹⁷² dbugs btang bas// tsha ba'I¹⁷³ nad kyis nyen
 (26:4) nas 'chir nye tshe// rtse gcig thugs rje chen po¹⁷⁴ gzungs bzlas^(26:5) na// rims nad
 bsal na¹⁷⁵(†) tshe ni ring bar 'gyur// klu gdon rgyu^(26:6) bas gtsets te skrang pa dang//
 shu 'bras myi¹⁷⁶ bzad rnag khrag 'dzag^(27:1) pa'I¹⁷⁷ tshe// rtse gcig thugs rje [chen
 po'i gzungs bzlas na/ mchiI] (27:2) ma lan gsum byugs na¹⁷⁸(†) skrang [pa zhi//]
 『『怒り狂った(残忍な)魔竜が悪しき息を吐いたために/熱病を患い、瀕死である
 とき/一心に大悲心の陀羅尼を重誦すれば/疫病を克服して、寿命は長くなる。/
 遊行する魔竜に傷つけられて腫れ上がり/腫れ物が引かず、膿と血がにじみ出ると
 き/一心に大悲心 [の陀羅尼を重誦すれば/唾を] 三回塗って、腫れは [治まる]』』

† rims nad bsal na: 古典チベット語的に直訳すれば「疫病を克服したならば」。XT
 の接続詞 na の箇所が、P/D とも nas 「～してから」となっている。P/D の訳として
 は「疫病を克服して、寿命は長くなる」となり、この方が文脈に合う。接続詞の用法
 の推移を示す例である。第 3.1 節 (5-ii) 参照。

‡ ... na: P/D ともこの箇所には pas (名詞化接辞+具格:理由を表す) が用いられて
 いる。P/D の訳は「唾を三回塗ることによって、腫れは治まる」となる。第 3.1 節
 (5-ii) 参照。

(108c17-20) 悪龍疫鬼行毒氣 熱病侵陵命欲終 / 至誠称誦大悲呪 疫病消除
 寿命長 / 龍鬼流行諸毒腫 癰瘡膿血痛回堪 / 至誠称誦大悲呪 三唾毒腫隨
 口消

[sems can rnyog pa mi dge] (27:3) bskyod¹⁷⁹ pas na// byad stem¹⁸⁰ sngags [dang dgras
 ni gtsets pa'i tshe// rtse] (27:4) gcig thugs rje chen po¹⁸¹ gzungs [bzlas na// byad
 stem¹⁸²] (27:5) gdon de¹⁸³ myi¹⁸⁴ la 'dud//¹⁸⁵ sdig ['phel snyigs ma dam chos 'jig]
 (27:6) pa'I¹⁸⁶ tshe/¹⁸⁷ 'dod pl¹⁸⁸(†) mye¹⁸⁹ mched sems [ni rmongs log bas// khyo shug
 so sor gzhan la 'dod zhen nas// (P380: 42b7 ; D723: 6.tsa.204a2) ...]
 『『[衆生が混乱・不善を] 生じて病み/呪詛の真言 [と敵によって傷つけられたと
 き/] 一心に大悲心の陀羅尼を [重誦すれば/] その魔の [呪詛] は人に屈する。
 /罪悪が [増大し, 墮落し, 正法を破壊する] とき/欲望の火が広がり, 心は [蒙
 昧になって誤るので……]』』

172 P/D: pa'i 173 P/D: ba'i 174 P/D: po'i 175 P/D: nas 176 P/D: mi 177 P/D: pa'i 178 P/D: pas

179 P/D: skyod 180 D: stems 181 P/D: po'i 182 D: stems 183 P/D: [gtong ba'i] 184 P/D: mi 185 P: /

186 P/D: pa'i 187 P/D: // 188 P/D: pa'i 189 P/D: me

† ... *pl*: P/D と対照しても、意味の上からも、接尾辞 *pa* に属格標識が付加されたものと考えられる。(25:3) にも同様の現象を示すと考えられる箇所がある。当時の口語の影響が表れている可能性があり、更なる検討を要する。

(108c21-23) 衆生濁悪起不善 厭魅呪詛結怨讐 / 至誠称誦大悲呪 厭魅還著
於本人 / 悪生濁乱法滅時 姪欲火盛心迷倒

5 結

本稿において、筆者は XT-67 に含まれる最初の経典 XT67a について内容比定を初めて行い、テキスト・訳・注を示した。また、XT67a の言語的特徴について、古チベット語および古典チベット語との対照を通して考察を行った。その結果、XT67a に用いられている言語はかなり古典チベット語に近いものの、古チベット語的特徴も残しており、過渡期の特徴を具えていることが明らかになった。特に、属格標識の分かち書き、口蓋化両唇鼻音 *my-* の残存、接続詞 *na* の用法などにははっきりと古チベット語的特徴が現れている。さらに、アムド方言群に属する口語の影響を受けている可能性も指摘した。

【参考文献】

- Fukuda, Yoichi 1997. Extended Wylie Method of the transcription of Tibetan characters and Database Project of Asian languages in the Toyo Bunko. In: Helmut Krasser et al. (eds.) *Proceedings of the 7th Seminar of the International Association of Tibetan Studies, Graz 1995 Volume I: Tibetan Studies Volume I*. pp.293-297. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften.
- Gesang-Jumian and Gesang-Yangjing (格桑居冕・格桑央京) 2002. 《藏語方言概論》北京：民族出版社。
- Jäschke, Heinrich August 1881. *A Tibetan-English Dictionary*. London. (compact ed. Kyoto: Rinsen Book Co., 1993.)
- Mimaki, Katsumi (御牧克己) 1987. 「チベット語仏典概観」長野泰彦・立川武蔵編『チベットの言語と文化』pp. 277-314. 東京：冬樹社。
- Nishida, Tatsuo (西田龍雄) 1957. 「チベット語動詞構造の研究」『言語研究』33: 21-50.
- 1987. 「チベット語の変遷と文字」長野泰彦・立川武蔵編『チベットの言語と文化』pp. 108-169. 東京：冬樹社。

- 2002. 「西夏語研究の新領域」『東方学』104: 1-20.
- Otani University ed. (大谷大学監修) 1985. 『大谷大学図書館蔵影印北京版西蔵大蔵経総目録・索引』京都: 臨川書店.
- Röhrborn, Klaus von 1976. Fragmente der uigurischen Version des „Dhāraṇī-Sūtras der großen Barmherzigkeit“ *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 126.1: 87-100.
- Savitsky, Lev S., 許洋主 訳 1996. 〈俄羅斯科學院東方研究所所收藏的黒水城出土の十一、十二世紀古西藏文献〉《絲路上消失的王国 — 西夏黒水城的佛教藝術》pp. 270-278. 台北: 國立歷史博物館. (原書 Mikhail Piotrovsky ed. 1993. *Lost Empire of the Silk Road—Buddhist Art from Khara Khoto (X-XIIIth century)*. Milan: Electa)
- Shōgaito, Masahiro (庄垣内正弘) 2003. 『ロシア所蔵ウイグル語文献の研究 — ウイグル文字表記漢文とウイグル語仏典テキスト —』京都: 京都大学大学院文学研究科.
- Takeuchi, Tsuguhito (武内紹人) 1995. *Old Tibetan Contracts from Central Asia*. Tokyo: Daizo Shuppan.
- 2002. 「帰義軍期から西夏時代のチベット語文書とチベット語使用」『東方学』104: 124-106.
- Tōhoku Imperial University; Ui, Hakuju, Munetada Suzuki, Yenshō Kanakura and Tōkan Tada eds. (東北帝国大学法文学部編) 1934. 『西蔵大蔵経総目録』仙台: 東北帝国大学, 財団法人齋藤報恩会補助.
- Tsukamoto, Keisho, Yukei Matsunaga and Hirofumi Isoda (塚本啓祥・松長有慶・磯田熙文) 1989. 『梵語仏典の研究 IV 密教經典篇』京都: 平楽寺書店.
- Vorobyova-Desyatovskaya, Margarita I. 1995. Tibetan manuscripts of the 8-11th centuries A.D. in the manuscript collection of the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies. *Manuscripta Orientalia* 1.1: 46-48.
- Yamaguchi, Zuiho (山口瑞鳳) 1998. 『チベット語文語文法』東京: 春秋社.
- 【資料】
- D: *The Nyingma Edition of the sDe-dge bKa'-'gyur and bsTan-'gyur*. Oakland: Dharma Press.
- P: 『西蔵大蔵経 (影印北京版)』東京: 西蔵大蔵経研究会.
- 大: 『大正新修大蔵経』東京: 大正新修大蔵経刊行会.

A Tibetan pocketbook in a Russian manuscript collection (1)

SHIRAI Satoko

Abstract

XT-67 is a Tibetan block-printed book from Khara-Khoto belonging to the St. Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences. Owing to its specific style, the book has been discussed in some preceding studies, however these have not elaborated on the detailed particulars.

XT-67 consists of three Buddhist sutras. The first sutra (hereafter referred to as “XT67a”) extends from the first frame (the right half of the original second folio) to the left half of the 13th frame (the left half of the original 27th folio). The author identified it as a kind of *Nīlakaṇṭha*. In the Tibetan Buddhist Canons, this is almost equivalent to “*’phags pa spyan ras gzigs dbang phyug thugs rje chen po’i gzungs phan yon mdor bsdus pa zhes bya ba*” (in Tibetan) or “*Mahākāruṇika-nāmā-ārya-avalokiteśvara-dhāraṇī anuśaṃsa-sahita-sūtrāt saṃgrhītā*” (in Sanskrit):

- Peking edition: 8 (380) tsa 39b7–43a6 (40a1–b1, 40b6–41a5, 42b1–6)
- sDe-dge edition: 6 (723) tsa 201b3–204a7 (201b4–202a3, 202a6–b5, 203b2–204a2)
- It also corresponds to an abbreviated version of 千手千眼觀世音菩薩廣大円満無礙大悲心陀羅尼經 in the Chinese Buddhist Canon (Taisho 20: No. 1060).

This paper presents the full text of XT67a with annotations and translations. Its linguistic characteristics are also considered in the context of the history of the Tibetan language because the aspects of the language in the period when XT-67 was printed are unknown. This paper proves that the book is demonstrative of the transitional phase between Old Tibetan and Classical Tibetan. It basically follows the norm of Classical Tibetan, but it also retains some characteristics of the earlier stage: for example, the reversed *i*, palatalized *m* (*my-*), unassimilated enclitics, a few words, and the style of spelling.

(受理日 2004年6月29日 最終原稿受理日 2004年12月7日)